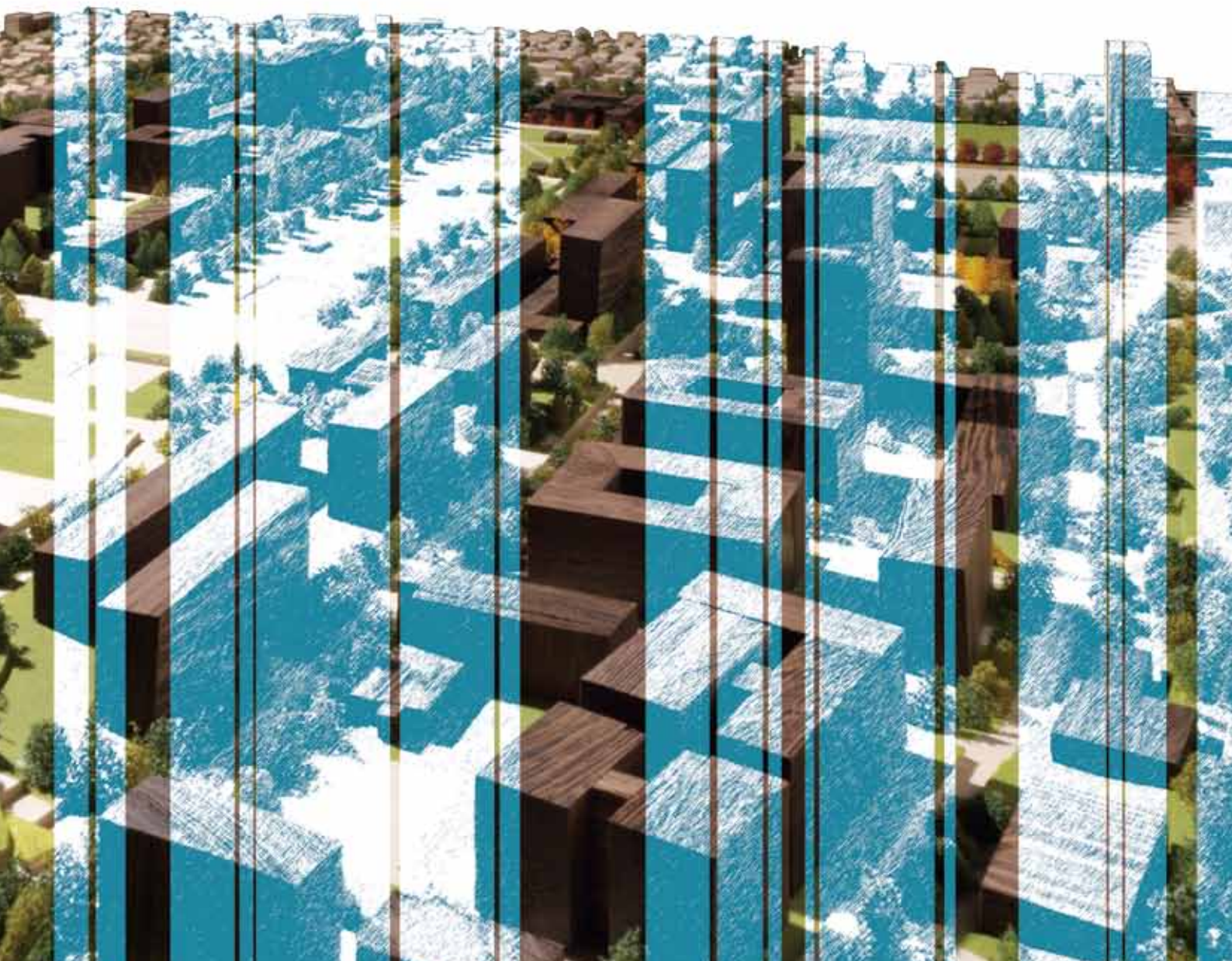


Nagoya University Campus Master Plan 2010

名古屋大学キャンパスマスタープラン 2010

ダイジェスト版



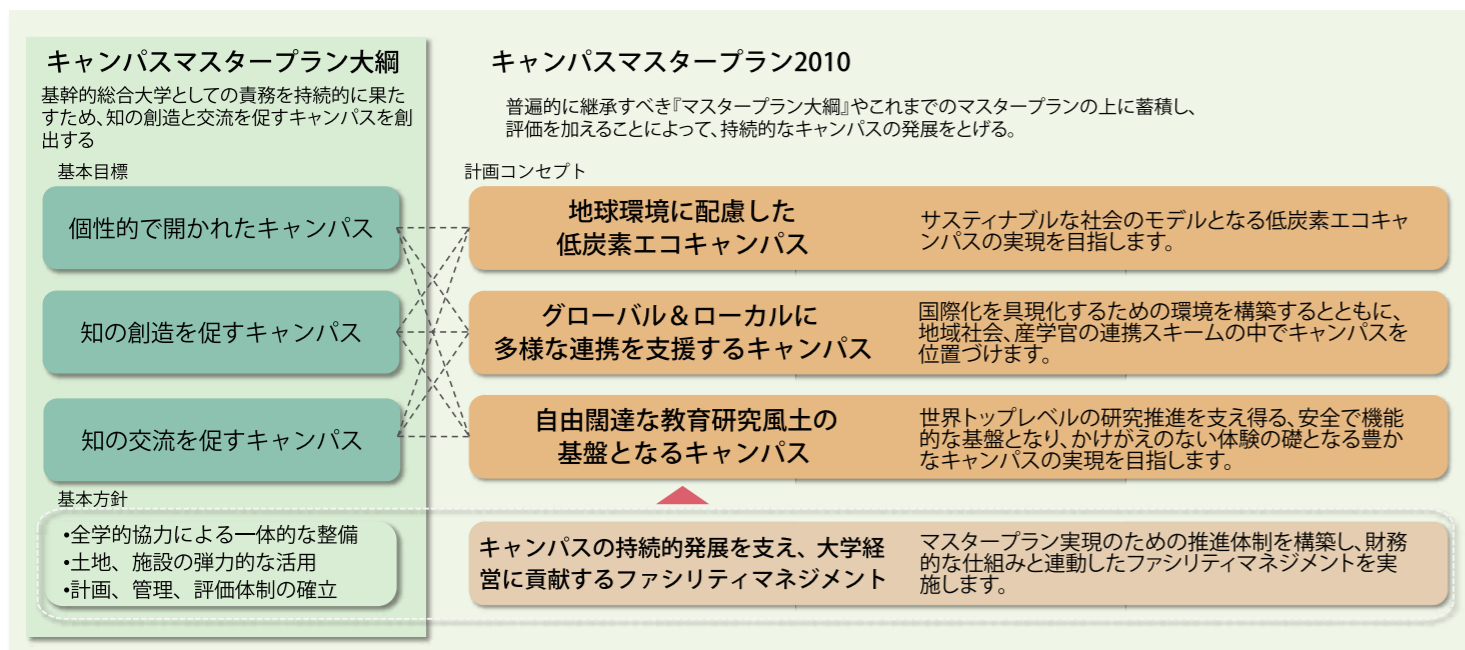
はじめに

キャンパスマスタープランは、大学がその運営理念に基づき合意形成した、キャンパス空間の計画目標であり、継続的に実施される施設・環境整備と管理・運営の指針です。

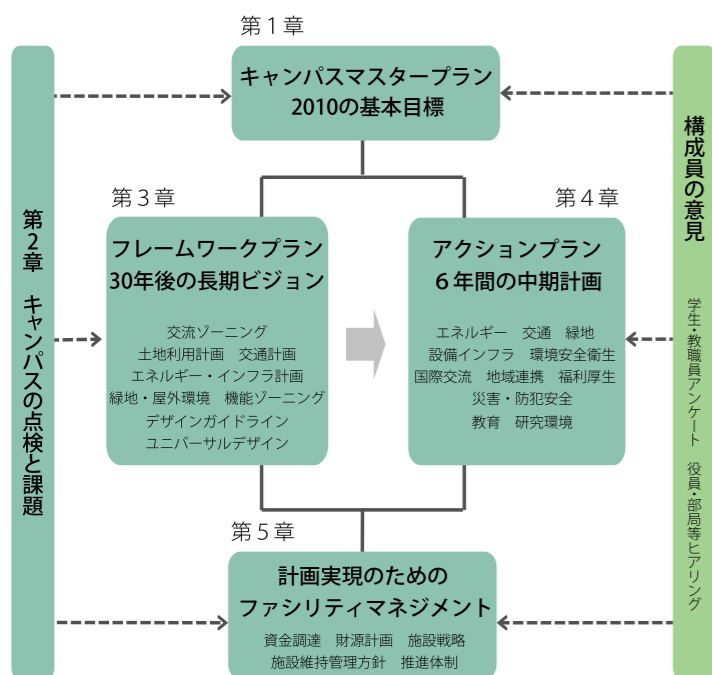
国立大学は法人化以降、中期目標・中期計画に基づき大学を運営しており、6年の比較的短期間にその達成が求められています。一方で、名古屋大学は広大な土地と施設を保有しており、キャンパス全体の整備は一朝一夕に進むものではないため、長期的な視野に立った計画が必要となります。また、キャンパスマスタープランは、教育研究の方針、社会の情勢、財政的事情、国の方針転換等の変化に、柔軟に対応できるものでなければなりません。そこで、このキャンパスマスタープラン 2010 では、30年先を見越したキャンパスの骨格となるフレームワークプランを策定し、それをもとに6カ年で実行すべき中期的なアクションプランを策定しています。

キャンパスマスタープラン 2010 のコンセプト

世界屈指の知的成果を産み出すエコキャンパス

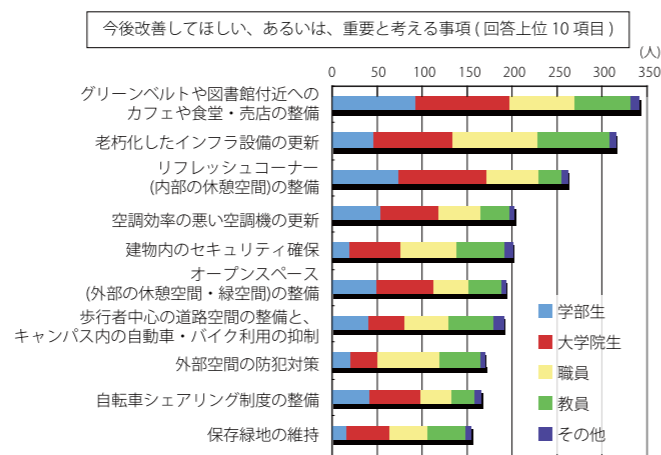


キャンパスマスタープラン 2010 の構成



実行力あるマスタープランとするために

幅広い構成員から意見を聴取する参画型にて策定を行いました。アンケートに寄せられた多くの構成員からの意見をはじめ、各部局や理事の意見を、直接間接に反映する仕組みを取り入れています。

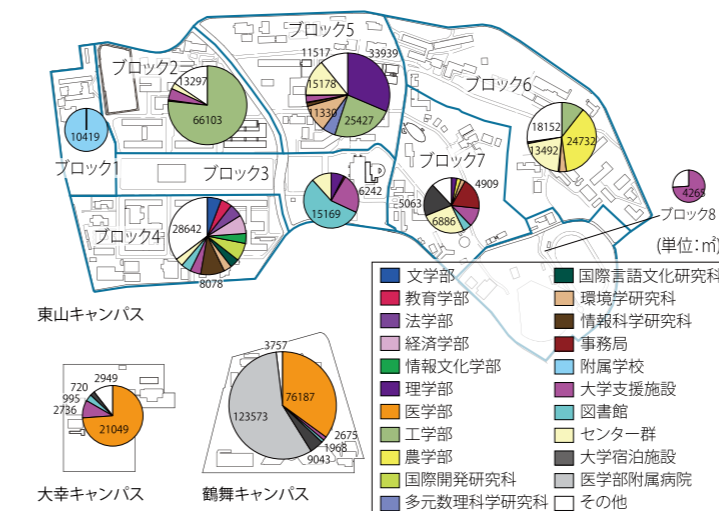


名古屋大学のキャンパスマスタープランは、将来の変化にも適応可能なように、点検・評価を繰り返し、成長・発展する計画として位置づけています。そのため、改訂時には従前のマスタープランとその実施状況を見直し、点検・評価することが重要です。

キャンパスマスタープラン 2005 策定以降、豊田講堂のリニューアルをはじめ、既存施設の耐震機能改修や附属病院の改築、福利厚生施設の充実など多くの施設整備が実現しました。一方で、各キャンパスにはいまだ多くの課題も残されています。

部局の分散配置

横断的連携研究科等いくつかの部局では、キャンパス全域に教員が分散しており、学生の移動や講義室の確保等、教育・研究上の支障を来しており、早期の集約が求められています。



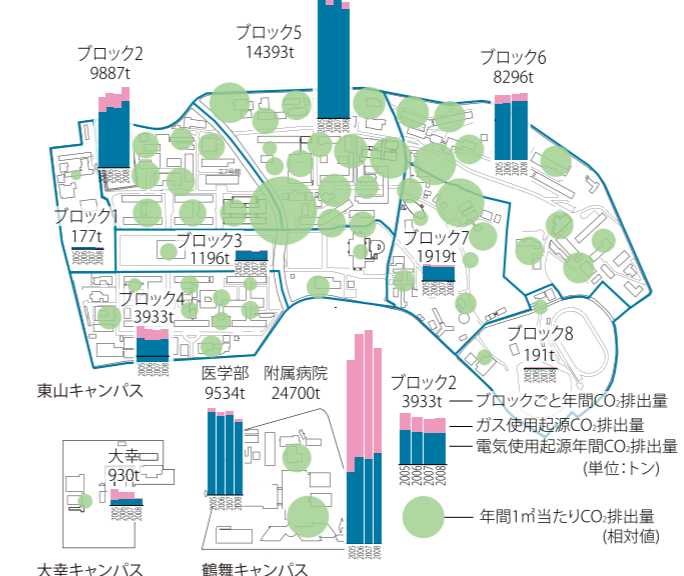
東山キャンパス	高さ31m以下の高度地区、緑地率45%以上の風致地区規制への対応 旧核融合研究所跡地の老朽・非効率的建物地区の再開発 耐震化のみ改修済み施設の内部機能・設備改修の必要性 プロジェクトスペースの不足とプレハブ建物の増加
鶴舞キャンパス	上限に達しつつある容積率緩和への協議 キャンパスらしい緑地やオープンスペースの不足
大幸キャンパス	保健学科旧本館(元三菱重工本館)の記念建物としての活用
その他団地	新たな整備手法による山手団地をはじめとする留学生宿舍整備 豊川団地の地域との連携を含めた施設・資産の有効活用
ファシリティマネジメント	施設整備・維持運営のための多様な財源の確保 スペースマネジメントの徹底等、施設運営管理の一元化

老朽化と耐震化

保有する面積の約48%は建設後25年以上経過し、このうち、約44%の建物は改修が未完了です。また、耐震化対象建物のうち、IS値が0.7未満の建物は23%となっています。

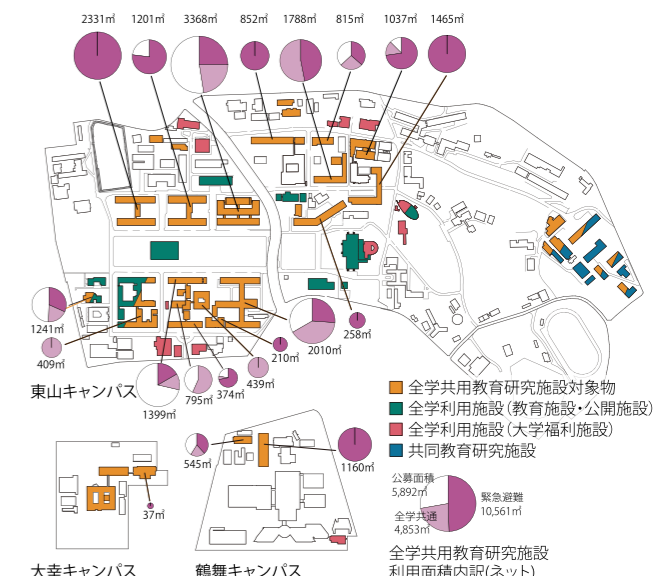
エネルギー消費量(CO₂排出量)

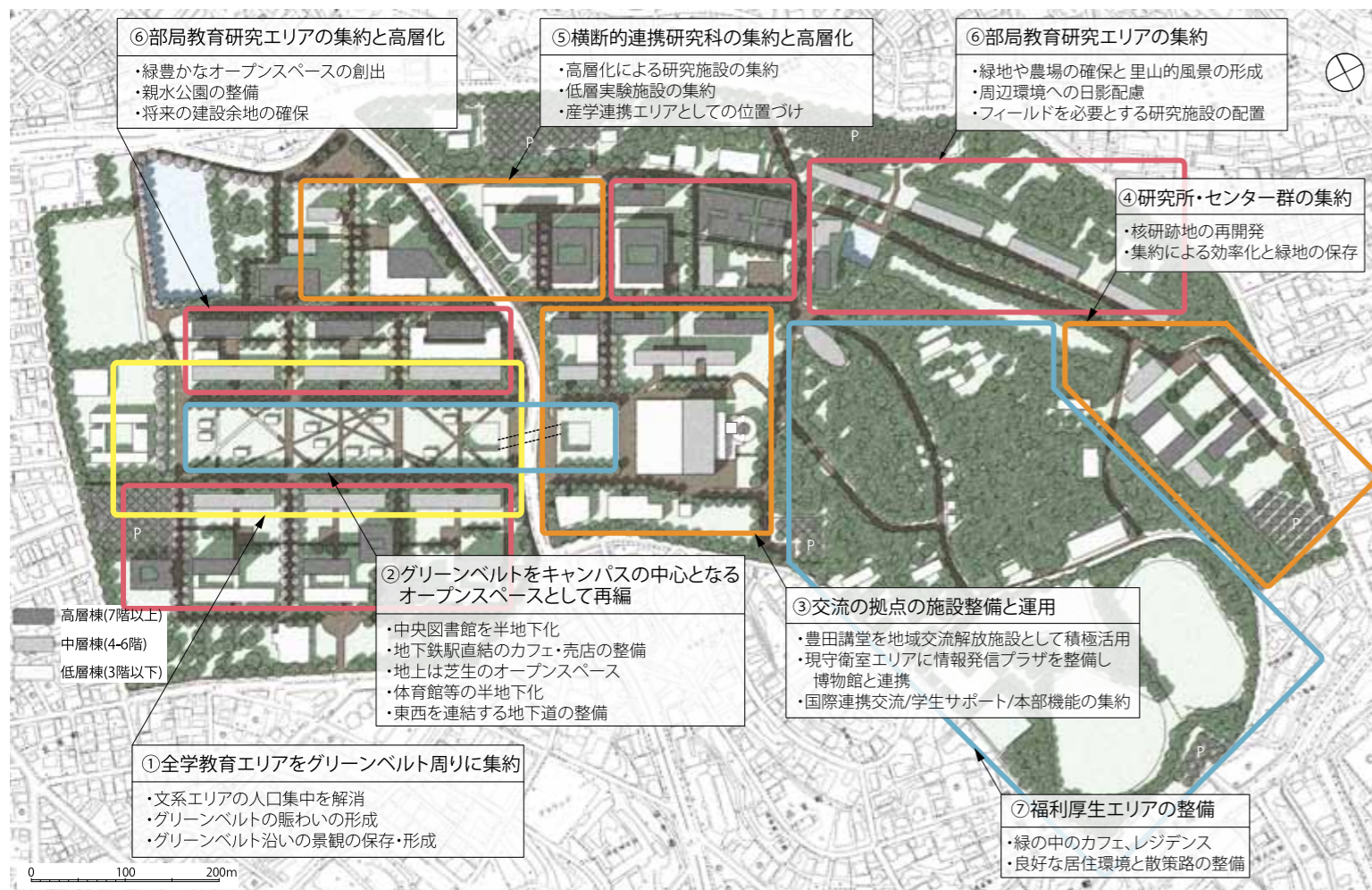
名古屋大学では年間約8万tのCO₂を排出しています。東山で約52%、鶴舞で約44%を占めています。面積当たりの消費量は、部局や建物による格差も大きくなっています。



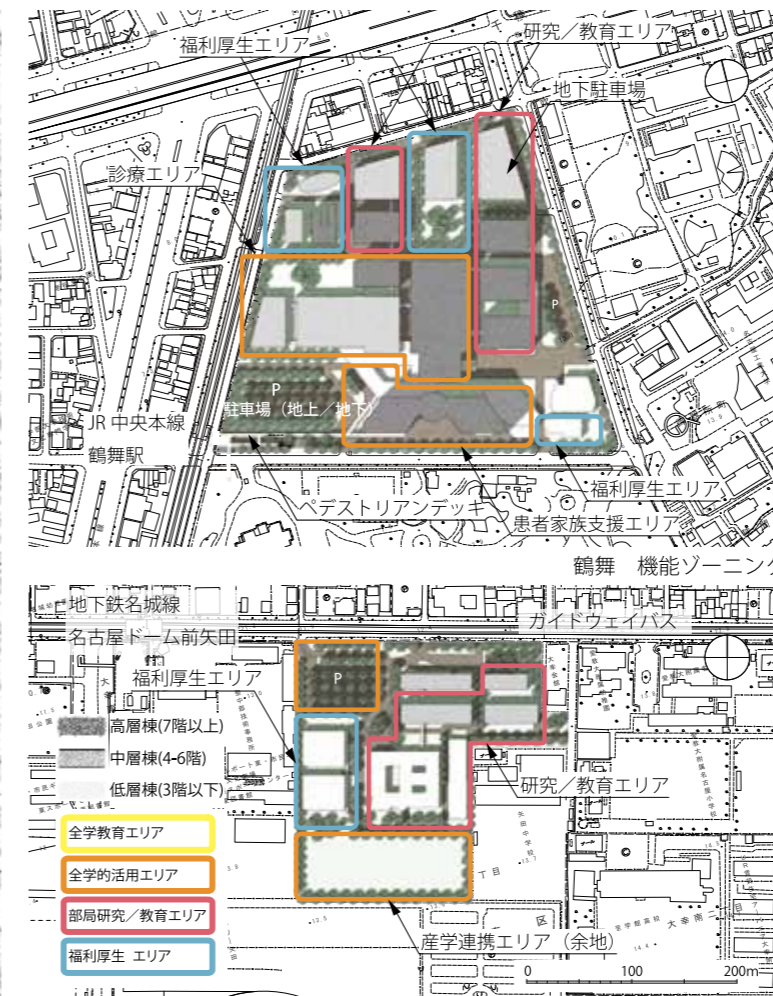
全学利用施設

全学共用教育研究施設は、先端的な研究活動の推進を主目的として約52,000㎡設置されています。多くが緊急避難や狭隘解消に利用されており、運用の見直しが必要です。





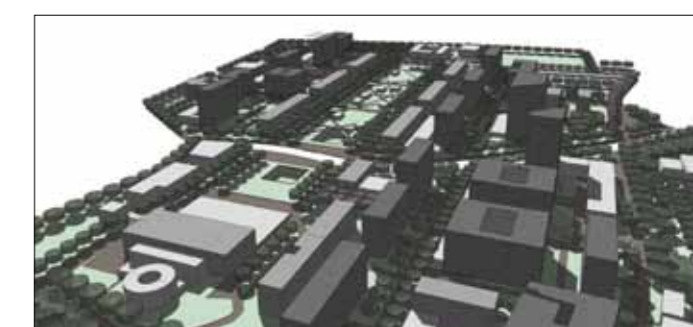
東山 機能ゾーニング



大幸 機能ゾーニング

東山キャンパス利用の基本方針

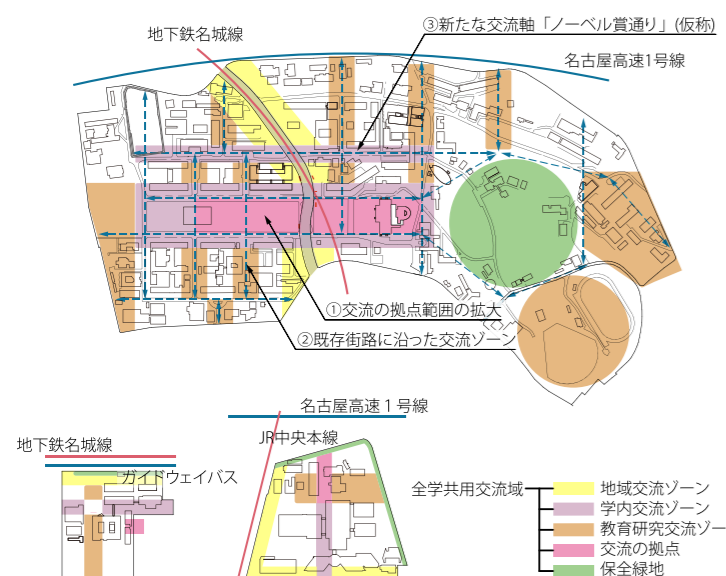
- ① 施設の集中と再配分
四谷山手通りの西側と東北側ブロックは、教育研究ゾーンとして、高密度・高層化を図り、東部緑地部分は環境保全ゾーンとして低密度の開発とします。
- ② アクセシビリティを優先する配置
学内外の利用者が多いホールや講義室、本部、厚生施設といった公共性の高い施設へのアクセシビリティを優先する配置とします。
- ③ フレキシビリティを重視する計画
将来への拡張性を担保するために、オープンスペースを計画的に確保し、部局の枠を超えた共用スペースと施設の効率的利用・面積の再配分を行います。



東山キャンパス イメージ

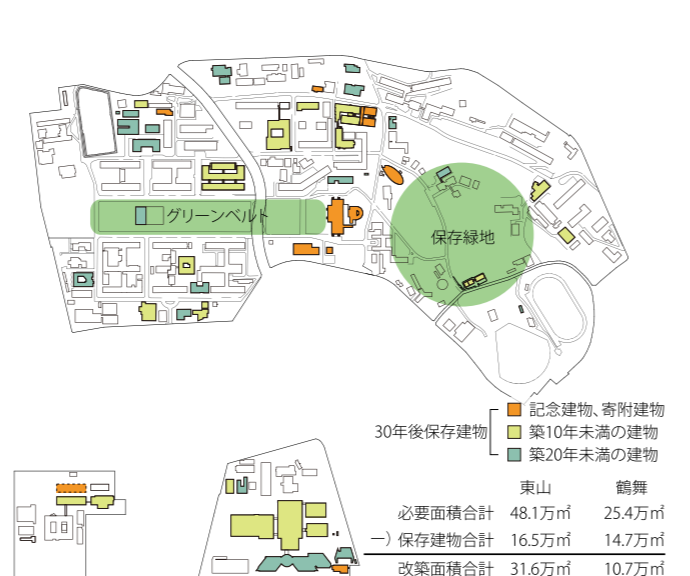
交流のゾーニング

東山キャンパスでは、地域交流ゾーンと学内交流ゾーンが重なるグリーンベルトを「交流の拠点」として重点整備します。野依記念学術交流館から鏡が池南に続く道路を「ノーベル賞通り（仮称）」と命名し、グリーンベルトに続く新たな交流軸とします。



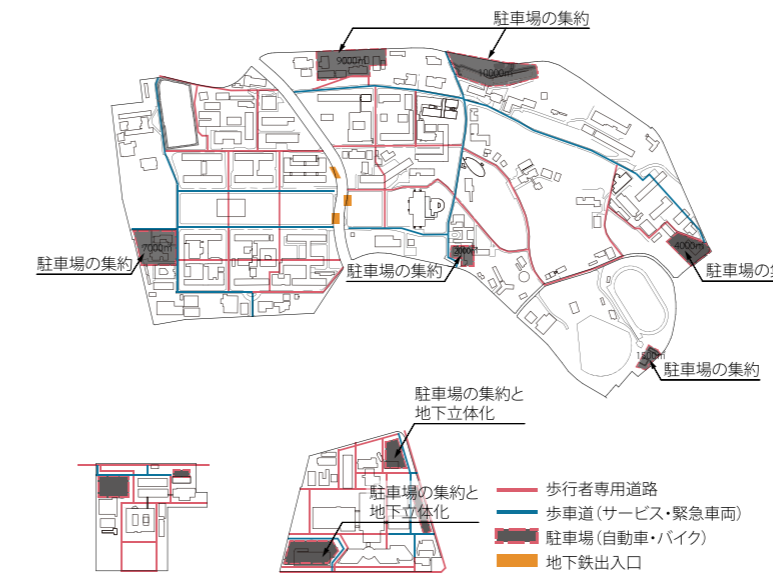
キャンパスの資源の保全と将来規模の設定

近代の都市遺産として緑地や環境が形成された歴史を認識し、その骨格を保全・継承します。豊田講堂をはじめとする優れた近代建築や環境が、キャンパスデザインの規範となります。このプランでは、施設運営維持の負担を増やさない適正な将来規模を設定します。



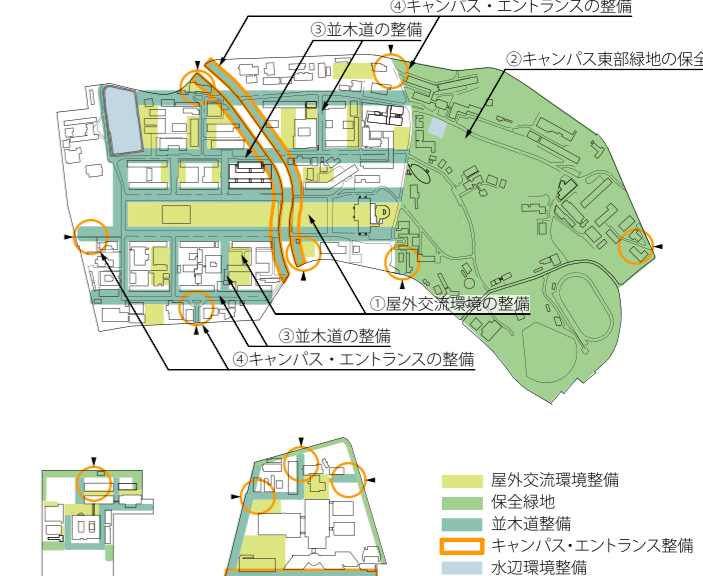
交通・駐車場計画

駐車場をキャンパス外周道路からアクセス可能な位置に配置し、キャンパス内の自動車・バイクでの移動を原則禁止し、歩行者優先の交通環境を実現します。東山キャンパスの東西地区をペDESTリアンデッキ等で連結し、東西の分断による弊害の緩和を目指します。



緑地・屋外環境・パブリックスペースの計画

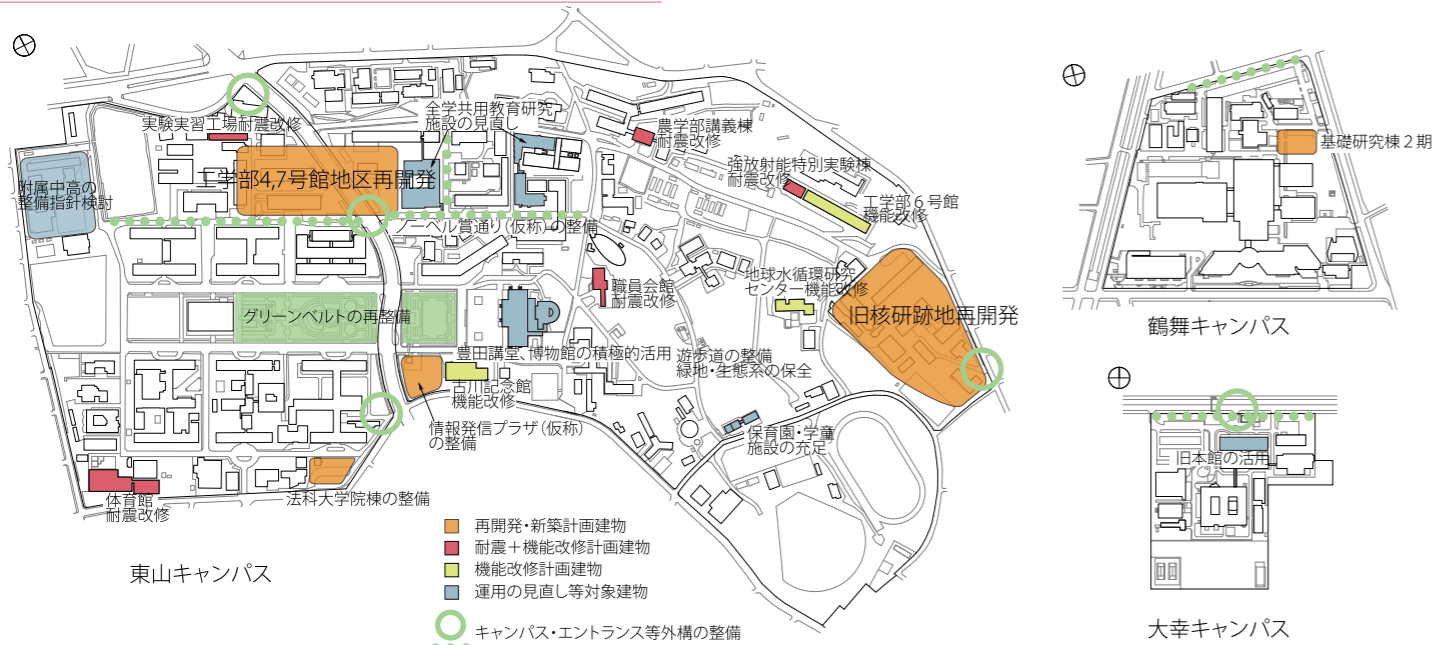
各キャンパスが立地する地域の条件を考慮し、構成員や来訪者の自由で活発な活動を支え、キャンパスの個性や風格を印象づけ、建築と調和のとれた安全かつ快適な屋外環境を実現します。地域住民の利用するゾーンと安全管理を徹底するゾーンを設定し、開放的で安全安心なキャンパスとします。



キャンパス・アクションプラン～6年間の中期計画

キャンパス・アクションプランは、大学の中期目標・中期計画にリンクして、6年間で実現するための実行計画と、キャンパスの効率的運営による施設経営計画からなる、「濱口プラン」の実現を施設環境の面から支える計画です。各項の「実施計画」では整備や運用のレベルを、①概算要求か外部資金の新規投資を伴う整備、②学内予算による整備、③予算化はせず、運用対応で実現する項目、に分けて整理しています。

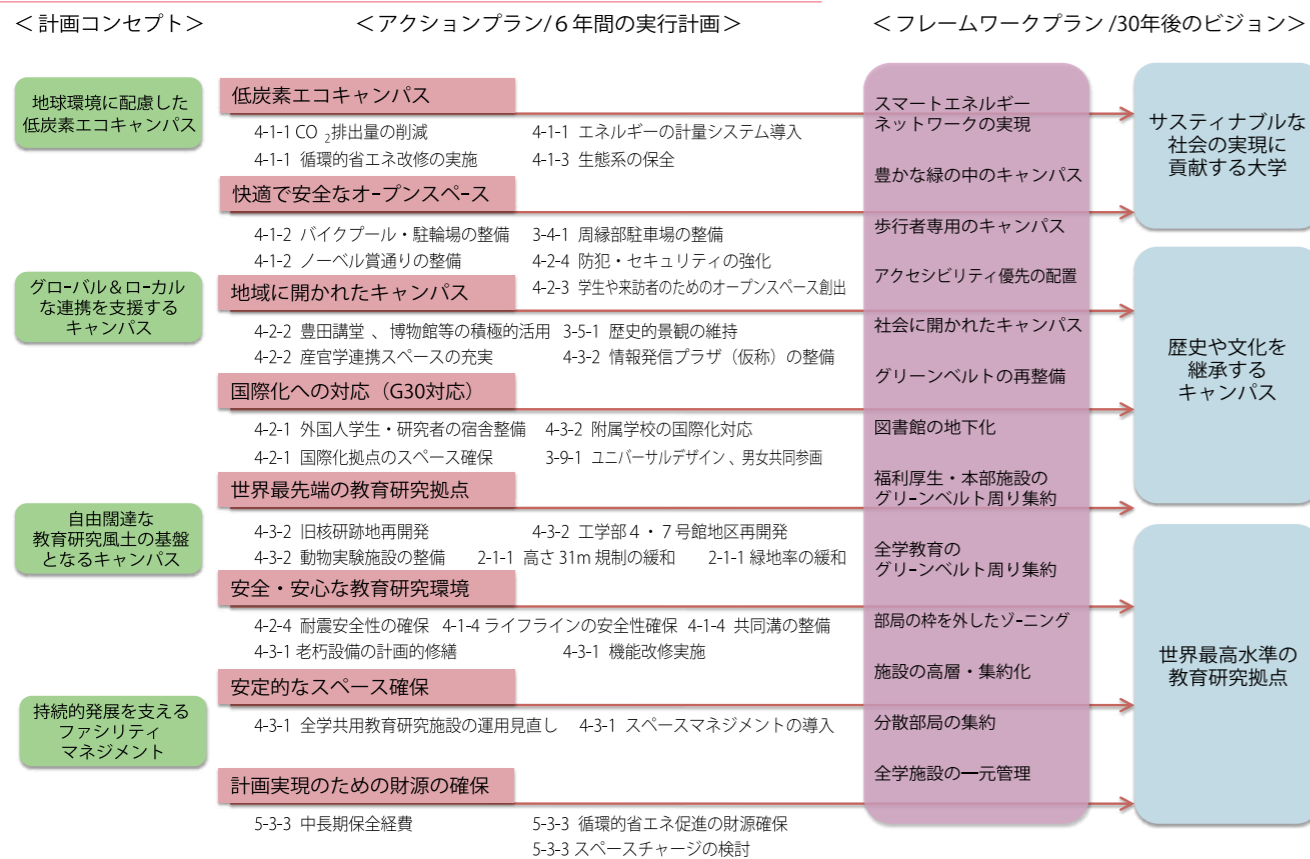
アクションプラン～6年間の実行計画



省エネ・環境負荷低減アクションプラン

2014年度における二酸化炭素排出量を、2005年度より20%以上削減することを目指します。目標実現のために、省エネ推進体制の整備や資金の確保を図り、省エネとコスト削減のための省エネ改修投資と、構成員が省エネ意識を高めるための教育や仕組みを構築します。

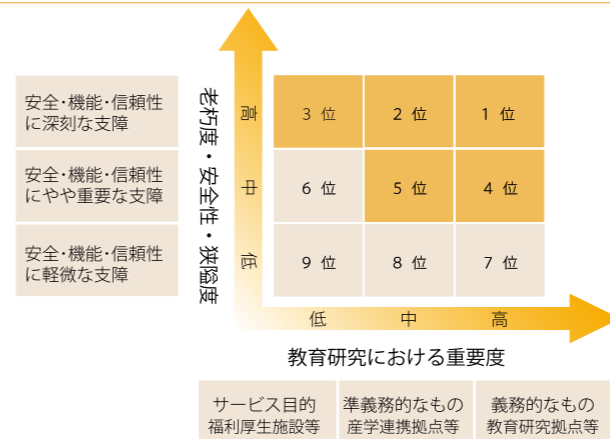
キャンパスマスタープラン 2010 実現のためのロードマップ



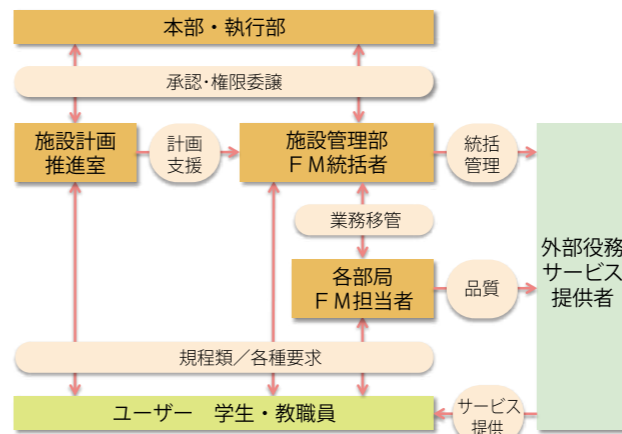
計画実現のためのファシリティマネジメント

キャンパスマスタープランに記載された計画を実現するためには、その原資となる財源を確保し、戦略的なファシリティマネジメントの考え方をもつことが必要です。ファシリティマネジメントは、財務・品質・供給の管理目標を設定し、その目標に向けて実行し、評価することによって、さらなる改善を目指すという、PDCAサイクルを回す考え方に基いて実施されます。

施設ポートフォリオによる優先度判定の例

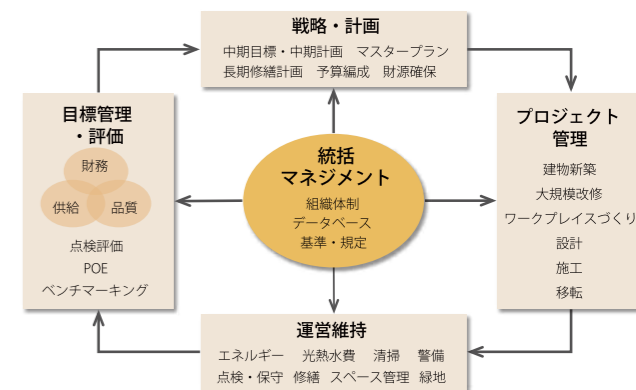
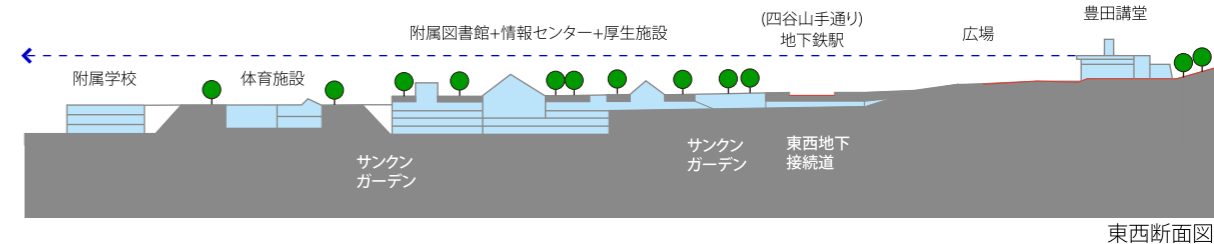


ファシリティマネジメント推進体制モデル



グリーンベルト再整備プラン

豊田講堂から続くグリーンベルトは、東山キャンパスの「交流の拠点」としての再整備を目指します。景観を損なう恒久的な施設は設けず、オープンスペースとしての特徴を失わない地下構造物を中心として、地下鉄駅との関係を生かした全学的施設を配置します。



戦略的施設維持管理のための方針

ライフサイクルマネジメントに基づく計画保全

長期にわたって良好な環境を安定的に維持するために、戦略的な管理方針に基づく「計画保全」を行います。

施設維持管理費用確保のための制度検討

- 1) 中長期保全計画に基づく基幹設備等改修財源の確保
- 2) 循環的な省エネ促進を可能にする財源の確保
- 3) 利用面積に応じた中長期修繕費用積立制度の検討

F Mのための会計システムとデータベースの充実化

- 1) 財務会計システムと連動した管理会計システムの導入
- 2) 各種施設情報と財務情報がリンクしたデータベースの構築
- 3) エネルギー管理情報などを含むLCM支援システムの構築
- 4) データベースを活用したスペースマネジメントの徹底

施設点検評価とベンチマーキングの活用

- 1) 施設性能評価指標の設定と検証
- 2) 建物点検チェックと満足度調査による点検評価体制の強化
- 3) 施設品質を評価する大学間ベンチマーキングの実施



名古屋大学キャンパスに関連したこれまでの受賞歴

ファシリティマネジメント大賞 優秀賞 2008
 省エネルギー優秀事例 経済産業大臣賞 2008
 愛知環境賞 優秀賞 2008
 名古屋市エコ事業所 優秀賞 2009
 大学評価・学位授与機構 国立大学法人評価
 「中期目標の達成状況が非常に優れている」最高位評価
 環境報告書 公共部門賞 2010
 日本建築学会賞・DOCOMOMO 100 選 (豊田講堂)
 BCS 賞・中部建築賞入賞・愛知まちなみ建築賞
 (野依記念物質科学研究館、記念学術交流館)
 名古屋都市景観賞・愛知まちなみ建築賞
 (IB 電子情報館、地下鉄名古屋大学駅)
 中部建築賞入賞 (シンポジオン)
 ヒートポンプ・蓄熱センター「蓄熱のつどい」感謝状 (附属図書館)



名古屋大学キャンパスマスタープラン 2010 ダイジェスト版

企画・編集：

キャンパスマスタープラン 2010 策定に関する検討ワーキンググループ、
施設計画推進室，施設管理部

発行者：

国立大学法人 名古屋大学

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

TEL:052-789-5111 (代表)

名古屋大学 施設計画推進室

<https://www.campus.provost.nagoya-u.ac.jp/>

名古屋大学 施設管理部

<http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/index.html>

本文は上記のホームページよりダウンロードできます